

片所の里通信

かたそ

No.169

2021.4.04

<小山のホタルと自然を守る会>

事務局 町田市小山町2545-6

Tel 042(797)5310 畠山

HP:<http://www.oyama-hotaru.com/>



ホシザクラ自生地

左がホシザクラで右が姉妹種のヤブザクラです。

谷戸のホシザクラの自生地・群生地は東側斜面の棚地にあり、数本の大きな親木から毎年御覧のようにひっそりと花を咲かせてくれます。一万年以上前の縄文時代にエドヒガンとマメザクラの交雑種として誕生したといわれていますが、それ以来他の木々や竹笹にうずもれて目立つこともなく連綿と種をつないできたものです。1992年に初めて多摩丘陵で発見され、2007年に環境省により絶滅危惧種に指定されました。桜といえば一般的にソメイヨシノのことをさし、その咲く様の壮観さに見ごたえがあります。一方、ホシザクラの樹形はおとなしく、花弁はシンプルで咲く数も多くなくひかえめです。しかも、がく片が鮮やかな赤い星状にしてささやかな個性を主張し、滋味深さと高貴さを感じます。

会報誌の名称変更

小山のホタルと自然を守る会の会報誌は「ホタル通信」の名で168号まで発刊してまいりましたが、今号から「片所の里通信」に変更します。谷戸は動植物などの自然の宝庫であり、貴重な緑が残された里山です。これからも、ホタルをはじめタマノホシザクラや四季折々の谷戸の情報をささやかに発信していきたいと思えます。「片所」の地名は大変稀有な地名でネットで検索しても日本全国他にありません。地名の由来は「かた」は（傾）、「そ」は（岨→崖）とされ、急斜面の崖の多い土地ことを意味しているとのこと（町田市地方史研究会より）

生き残ったホシザクラ



左の写真はなんとホシザクラです。場所は宅地造成地の最下部の住宅地の下で、谷戸の下流の沢の際です。辛うじて造成工事から逃れて生き残ったものです。谷戸が埋められる前には入口付近の位置にあり目立ったものでした。しかし、10年以上前の台風で倒れてしまい枯れる寸前でしたが、枝を切り詰めしっかりした支柱でささえたため生き返りました。2度の危機を乗り越えたラッキーなホシザクラです。

最近の活動から



3号緑地に移植した親木からクローン繁殖した苗が密生しすぎたため谷戸の日当たりの良い東側斜面に9本移植しました。もう花を咲かせた苗木もあります。みたけ公園からの10年後の眺めが楽しみです。

上流にあるカワニナの多く棲むトンボ池に流れ込む水量が不安定なため水量が多い下流部に「カワニナの池」を掘りました。泥炭地で足を取られ泥だらけで苦労しました。新人のカワニナも棲み始めています。



トピックス



2年前、台風で折れてしまったコナラの木にシイタケ菌を植えたところなんとシイタケがニョキニョキと出てきました。谷戸の木漏れ日と適度の湿気がシイタケに適しているようです。

苗木の寄贈

桜美林台自治会から、お世話になったご夫婦がご引っ越しするために記念樹として植樹したいのでホシザクラが欲しい、とのご要望がありましたので寄贈しました。さっそく尾根緑道の花壇のある日当たりの良い場所に植樹したそうです。このホシザクラにご夫婦の飼っていた愛犬にちなみ「ポチ桜」と命名し、大事に花の咲くのを見守っていきたいとのことです。

